

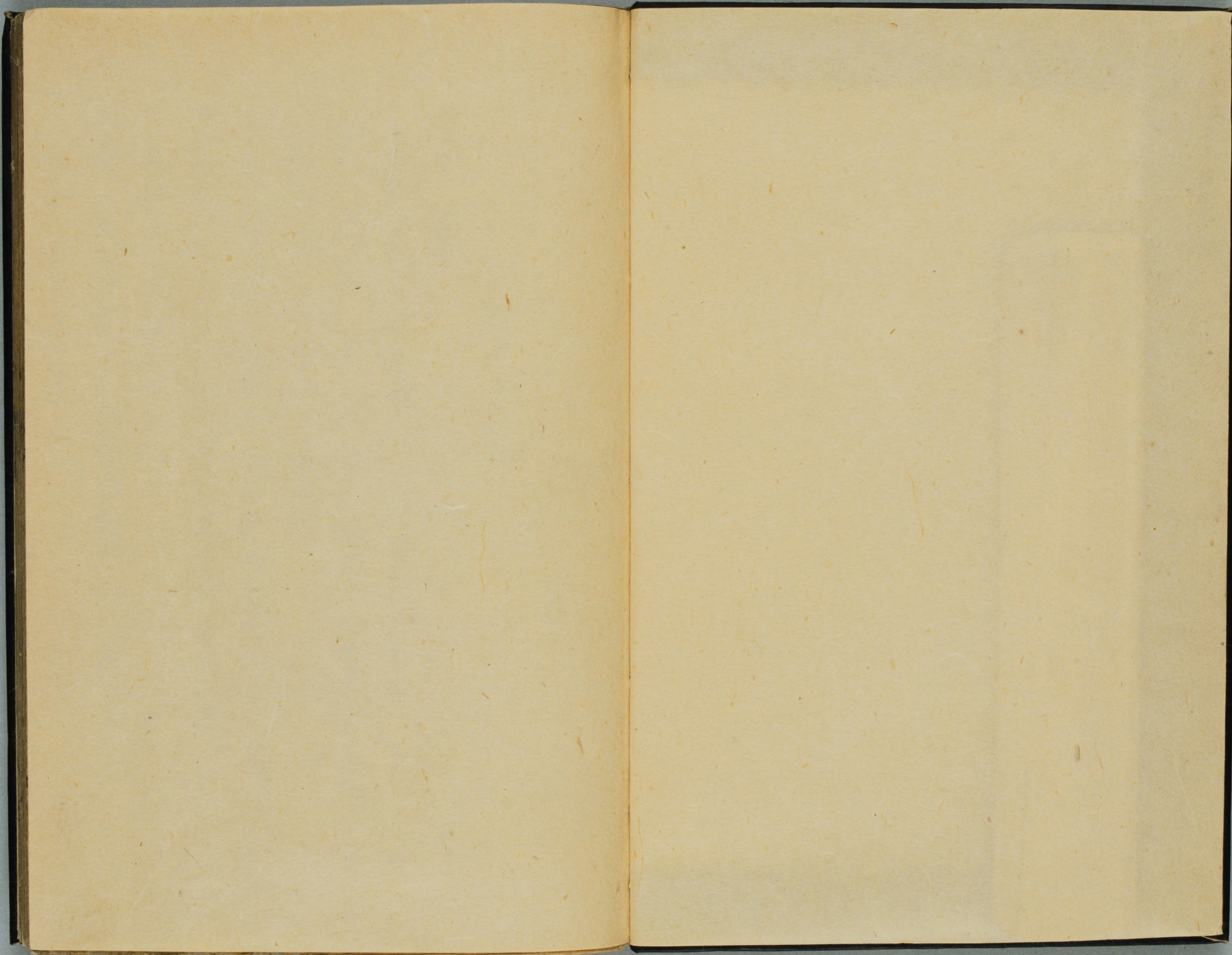
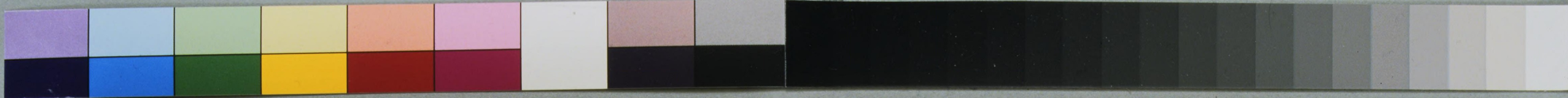
WA 7
175

うをのうた合・けだ物の哥合 WA7-175

00-001

国立国会図書館

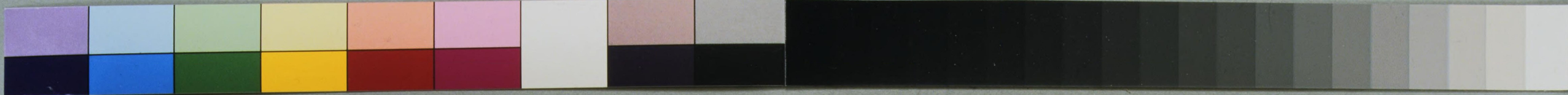




うをのうた合・けだ物の哥合 WA7-175 00-002

国立国会図書館





うをのうた合

一 友おめでたい忠言 右君を忠のまけ

二 友をいりい言 友をきぬきさんわんどうぢ

三 友ふぐけらさんあくそうぢ

四 友 たんうたわおさんこびの助右かりいとまへの助

五 友 友をいはいううたあまうあざねかりのがう

六 友 友をまぢぢひよんち郎

七 友 友んがんうたわぢぐちのひら孫助ハ

八 友 友をかろけうきよ



六妻 といかいうくたたまぐりういのまげ

右たこ乃入及けんさい

七妻 せんどううたききの六郎太右方のせれだしまげ

八妻 たいかいあたらふくいちう右一うりたちのうを

九妻 おりうれあたらひけ乃忍び忍まん

右か小うにたしひ乃まげ

十妻 たいりいあたらひままをん右大がけ九郎太

十一妻 上下おりうのあたらまこのさ忍まん

右わハびまん大ういち

十二妻 たいりうくたごぢうのぬらま乃まげ

右かあ物あちう

十三妻 くハいぞんれあたらはういとびうを

右とき屋さよものまげ

十四妻 たいりいあたらふろこびを志らま

右志そハでかくくひあうへ

十五妻 くハいぞんのまんあたらもて八句

あろくしをそのせう かりころをさすご

そかだらのなままげ 妻さめふアんあう

さそらたいやしれすけ こちたすへルまげ

いのこう忍まん くじさたさたさ乃まげ

い上八人

合拾又妻

丸 ためてたい忍まん
いふよてん乃水に

まをかからぬハきへぬ

さる勇あらん

一巻長うし

夜 まことこひれまけ

かどてかくる色かろうぬ

あか人やこひてふひまれ

さへぐわけくま



らんーやめていらく丸の音ハあんハまんきうにあいガ
つててんむでんあよ乃志のハうくゆああろふあふとし
てあひれ火ハん乃水まてふハぬそのぞすでにきうまん
あも一祿んうさぶらそくめつむまうざいげんト也むび
らくごあうくあうごまわりこまハ一こひるを祿ん
まれハむまうれはをもめつーしてけんさいはてハむびの
りくせうげごあうにてハあうあう乃勇とあるといふを
んあり一交ごせ祿んトてさへこのよこまうて日ガ
きまをたもふるハうろひろともみはう乃まも日すお
ためしあしこまをたへハあーハいそあて祿んそのそと
あーきを立てしへんさうくいまめうふしと志こくせりさ

て名乃高ハコガかよひぢせふか人乃わけくま及もかへ
 ぢゆきわひ給へハむまどとろきさハく小流けてかとて
 めく五そとあけされ所まり小よめふおや 古き小こ
 ままハもこのふ給れこいハせにひまれさハまのお
 三たうく三ゆといへ給とあひりしきまこるり初んうと
 野事ハことむせうりて心とあへ心をうりてそ乃いろ
 とあへかきせ下し引かへ又初んうの大いをそらかとさ
 ましくれやうふちしきと信ちにこまハかあれこく
 ろことをたうハざらふよんそ初ん流く登けまハだのう
 とをかわとさしめやうんう

丸 ふきぬまさんあん

とうち

給とらまてあんごう流られ
 の残き名やたのあ三は小

ふきぬらまけん

二妻んいかいうこ

右 ふぐ流りさんあく

とうち

まらハく多男をさ乃ぢくと
 おきふよそむ給とらまてと

ふくまこそとま



ちんしや中ていんくた乃わんごうのうゝハ衣を祿とら
きてわくぢんの此さうろハあきか此かせ小あふてわひ
たちあきんよめも小やぶぐのうちのふきぬきとつふ
さう物ハわんごうさひうじうろうーはあん小うりて
ふきぬきとよまかしうろや右ふぐ乃あハきハハぢくる
乃たのき、あけまハあ乃かぢをうろまて乃色うあうが
どくとぢりむ祿をらさふくわうすとよめお小やぢんが
うにま 物にふぢくとさんといウツてたらあうトさう
う乃とくれわうわふ之と小大とくわツて人をこゝろと
がゆん小よふみかこまをさうふとつふとおまひ合うろ
うまことにみぢまハやく此寸あさハたらたあげわうけ

しきあまばくこーてあをまにそおまひをろ乃こまあてた
乃うこまをハたもひますとこあぢまハ右ふく此わさん
ふくさうじ乃あうちとさたうやさんやいぢまもた右た
にトがうさんかうまでまきたまひたうらくはします寸あ
ああうけれあとして祿とらまたるかと伴へお又もトさ
こごころにてこそまぢあんあふまをがごい乃まころと
いふにてやんあふれあ急かーこくまうます寸やがだい
とろへまにあらさうろ

三菱たんろ

花わゆをえこひの助
あづまがたるハあまぶ小
あまくまてきりかたきけり
わす人乃らふれかそぬれ
むまあひてきあまえん事を
うらもてもうらこハ

洗きじ八百目

ゆくたま乃まさこ乃

かきりあけまハ



右 からのいとるへ乃助

山きのたろれをつたのよ乃
浅からあひそめあまこゆて
つをあまいろをちよみぐさ
ハちせーへてもからのいと乃
むすふ忍ふーやあらざらん
はよのかられ浅ことぐとあ
らんさがえんらるーさ丹い
きまつきあ忍ど物をこそあ
まハがあもへこよかく小月
のかろそやれもあけふたる



ろんどややていらくた右左とい中るあハざる恋をよめ
 多にやたんら此はく里やうハ多んよひあまていりたもこ
 とたをゆけててそく小一あもれあきをまへ又はてのせ
 七あえじめれぬ七又ととり会とりのたつごとく小と
 やらんあをまきいゆきの又まきからよそち下め伝まじ
 ろん中あにきこゆらごとく小とやらんきく伝まじその
 志あしくこさくこれひをんよおよびがたけまハか人乃
 ふのこころもあらんやとくこたから乃ま

危あまうあざぬかりのり
 山のいもふちせ小かじも
 あまだかじうきことかりて
 かをあらうまらん

口数

右 かまどのひよん太郎
 風乃あく風さき乃たさか
 ねさるあまかまつりさげて
 こかまゆくふ祿



世士

カ

らんにいえくたまひらりまうー山井井水をいまはつ
まきぬかこだかことありてうきこのふせかかまるとよめ
けうあせ又山乃いそがうあぎにあるとよ乃守れさこ傳
まきとうこのうハさをこくろにわけてよめねにや衣の
あハさうさを乃くこがね、せさへ人の口よかけ傳るふ
れさかの力こしてこひん乃いでんとせしをささへうま
あまづらさげてあせこがま事のらうーまことよめね
小やきをせこ小 ふくあめてあまをささゆるとりふ
せかまうらうや志かこはたうりハさうぬるをいへねあ
まハおさかのこひハさうぬ物うかこくいあげさこつらよ
そかひてこれうら上下のうれまへにおあしそじのあう

びらうのりんとじのあうのあん

はくをけまハ衣のうあさの

うらをかちとやさんう

こまハあびやか小

こころあうくか

あーまわりてらんーや

がこころをあひ

はく乃こあり

た あちにはひろ福ぞう
そでれうへをかこふさ
をぬれびさの

たされかきまや

又妻うんがんう

右 あかろううきよ

うきかたふさへんかさへ
たちをれむか

こひーき



あんどや中ていらくたごもにか乃うろこひせよの類
にや右れあれんハうきかさへたくぬむかーがこひーき
まーてせしむ氏ごをありひかせハいむうりありかーく
侍もめれハたち苑のむかし小ねをひよせうろこやこの
たちをかのむうしとい魚もハせうむ天日うの浪宇小天
辛八年十一月井て乃花大おんまあ志こうに流まへあう
たちをかを給ハリてたちをあうあのをめとあさまけ
数とさの浪せいふ たちをあハとさへもかさへそ乃を
さへあうに志もせげはしてときハ本とわそのさまけ
よしかりこまら乃うこぞやねしひよせたるへらう又花
あハ日がかのたつをわくひよせて三侍まハせてのうん

もぬ乃びきれたきよにてうらひるとも小まめくときか
くさるを乃をたくらのをたまふやたなれに志あせはくし
侍頼やらんちうぢかーちんトやれくトらだんぎへまん
が心バたごきこそ ぐちむちあせりれていやうのまツ
ちく小ひとーとかうわう大し乃さくひざうやう屋くふ
かくまし小おあーからめ

た 七まぐりかい乃助
おそらくハふがひあしとそ
きこからでたま小ふままん
こーれうをばら

六妻をいっいう

右 七これ入るけんさい
うまあさけあけてうまかこ
あきうてハくくでひまあく
うよふをつわ



丸んにいづく丸ノ房乃心ハカハカ子こハ丹乃ハむを
てさ三丹こそうても此らにて色ふまきめよわう人
ゆハたそらくふまきまどきこがいにいんこてれう
ふや古房小 志かれがもうの用水もかせたあてはま
ぐりも又ゆらまききにけりあわりせりたへへおろま
こ又人ふまきあきてきこあらでとたををまぬる
しをわりのとさして右たこのうへハ一三のしま た
これ入るまうたわかしゆのまを志がりかけよいかん
さあうのやうとてん祿ん登ツこきんういせハたれう
志やう小かへまこつへおとふまふや房のこころ
ハうこかじせかけひまなくうよふとよめお小やみのこ

とまらてまきげをうけてくらふとつふとををよこ入
うらハげゆを一きう乃一乃こころにうかかひたりか
をんこ 三かじ小わくおハつち乃くもでひまなくか
こい魚乾いせそのかしり乃おかけもゆきなりとどろ
乃うこ乃いたんかしあけまバ入るど乃くうこかちこる
魚

た せがき乃六郎を

うけりゆく月目も志ら守

よきりえ乃いつせいつとか

清きあきいろ乃

からうごらん

七敷せんごう

夜 かのをのだしませ

としかぶさかきあつめうら

ととけまはあとのたうりふ

あふこくちまろ

うらうせぞやく



らんぢや中ていらくせんごううとやらん八人のよした
歌をうそあまは物事そかくとききてぢせへ志傳るるを
まさねたかをとえこさうし中におよををいうこのよそや
うハ此邊のうこにて心をもらさざしてそ乃あ句のうへ
小いま一句せくうへ又とりのたのさまあせ吾一句と
かそあふおれひきあふとくおあどらとけたへつまごも
よこあらハさねハうーあーなさぐらん事おひもよら
ませんごうとりのふさう乃ハかーら丹めぐれとつふか
又ちドめ小あへちやうのこくあかい津連もんれくま乃
くらけまハこさけんかこを傳らま

花 かにきいん

君があたりめしよせり
むらさきのいろもあま

勇をこがむらん

八 友 たいかい

右 一 ありたあれうを

流るれまも三祿ハ三小流く

れもかけせか小中だあ乃

あもいさまこや



らん小いたくたれゆちうらうらハ勇れなりハひせうく
れもいまいまいたるやよれつ祿き三乃まハリあえあま
ぞあまやけあるあとして三生こがさせまうも大に丹い
ひてあまこさくごかせわらこさハうまぶかあらあけの
あさけあどかけまひらすまど流おまあぢ乃よきといえ
しめしたるうりま流のぬ乃まおまひよせてよこたまあ
やまたあれうま乃うらハそ乃勇乃かによそへてあんけ
字あんのこくをまこと丹古人乃ことだれをあまひこ
と乃をまえてあそぶあうとわかせなあまこよよくうか
いころあまこ流るれまハまこし乃まハ花右流おあか
あけあれまかびやうあまバあころあ



危 ありひけの忍びへん
忍ぢがたくひかりこそ見えよ

かく斗うきまにそへて

た忍ぬたをひを

九妻あり匂のうさ

右 かにうにおもひの助

からころもにしきのそてを

かんしゆくすた孫小たに

だのむおまうけ



らん小いんくた乃忍びの奇ハ忍ひが奇とりふもド
又句れ上小をさ右のう小の奇ハかまが奇といふ又
と乞も又句乃かまにまへてよめちまや忍び乃奇乃んハ
大奇のこま奇のぶが奇小ま奇まもも忍ぢかこく火のよ
顔ハも奇といへんま奇りま奇ま此ありさるハらんぬ
おひのゆ人とよめ軽小や右奇ハ万やうよ 志ろたへ乃
そてありかんしこま奇たりいしがまがたれゆめふしこ
ゆらと奇をうりころや乞ハそてをかんしよかかみあそ
孫娘ろよハたきふんをゆめおころといふたる之万やう
古風をねんれしるや今まうやうにてか此かーくよま
またりた右まよまぶらよこそ侍連あり匂の奇奇連バよ
くてやあらんあーくてやあらんよまー心を志らざかー

左 おひまをへん

めすとりふことたそが色か
いくとせねうかこ水小

おもひますらん

十数 えいりいうこ

右 大ざげ九郎右

たをへんてひとへよあふ
さねかこ乃か三乃よろく

あさけともがあ



をん小いたくたのます乃あハとし月ふまごめをにこし
たをく久さぶまハねもひまをよめろめすどハめま
をせいふ之又右あさねかこの念ん小ありたへひとへか
といひてか三れらねくあさけもがあとよめね水や
右あ小 ぶねふたちろふきてめまバさぬウ已れすそか
こあびてさげのがね之と伝ねをありひよせころやこころ
ことむゆふび小伝まハねれうにこそんもひあま伝ま

た あまこのさへきん
あま事色まばハ志乃ふれ
ころきてせめあまあうらも
かふそにぞねしふ

十一番上下乃おり句乃言

あ ハハびさん大ういち
かさいととたちあうあこそ
ねそいひび物あハまはし

ひらりこそぬき



ちんしややていらくたのあまこのあハあまこめがまの
あまふといふ十字を又句乃上下にせき右あハひのうこ
ハうさあそひく志連といふ十字をこまきもふ句れ上下
まをへてよこ伝路ときこゆ右もに志れぶこひ乃こ
ころせらめるときこへ傳連とせうせつこまかんがたし
さうまけおり句れうこハよままぬまめと所たへきく傳
まをかくれあんハゆらさ影、色傳らんとたもへど
乃さたさへあうざりき

た ぶぢぢうのぬらとれ助
さぎの志ふ為ハからハあま
おもひ物と一たひあふて

ううぶせそかあ

ナニあえいういう

右 うあ物あぢう
こと乃ん色あハらぬうとれ
そこふおてこひしきうの
いハかこぞあう



らんにいまくたのあぢひかこ小勇を志づめらるるに
心とくこさうんあり一たびあふてううぶせ物のなをさ
ぎの志に勇ハあうこもくいうあしまどといへも小や右
乃うさハかづうぬこひに勇を志せめてこいしがいはか
小あうかどしくとせうあうとよめ終にやまらと小ねを
ひのせつあまバこそたうさハいのちをわけ右ノあハこ
いしがいたかとあうまぜんをたうく物終乃こいしはまう
あだ小あもへらと志からをぢとこそ中登けんや

た 口かいとびうを

まらむかるとひよらうに
まごめきめとまふしよらよ

ひととをかむらし

十三 友くはいづんのうら

右 とき及さうりの助

まらぬくハかあきけあ
とこやまやとしあけさ

中なるらし



らんぢやうていんくくはいづんれうとやらんハき
うらとおあやうあきけあまてはまぢやう中まとき
と伝教まことみよまらまどきさまあまぢやうハらり
きことたかかんめれともあでとしめらまらんやちん
やがこころあまはあをれよひがたけはハた右とまふ
ころ乃水のま三舟ごまいさまらあまのまらへもまごめ
がくくむごふのま伝るめり

た よろこびを志らま
志らくし志らまらとてや
うを流りによろこびとて
こひのえてあゆ

十口あまいかいとう

た忍そハでゆくくびやうへ
忍そまきぬあまのかへきふ
引あまハこまきや入めの
せきぢまらま



らんぢややていたくたれ志らまらきりあせよと入て
こひ乃をてハよろこびをまらとていへも木やとりハ
たねておわらハなり右あハあふてたちかへ難とさ引
あまにこがま此かくらんせあひやまハ忍ぞまぎらまね
今まで人めれせきこつへもを志らまらましよひあまぞ人
めれせきあうらんこよまらへれハこひ此あひいかり
ざらやこひあハあふ恋まらこひまねぶこひまらあひこ
ひさくこひまらこひいとふこひあの中く志まらくの
あざりハ持ら守い流まら乃こひ少てもあひのそハぬハか
ひあしあうよこひれあひいせよとそくやかまらうこをハ
はなう病とやらん中てうこの中れまて物とやいよあ



ひてかきたとて人ふ志らせえや人めのせきハハから抱
そかとよめ顔ハかこ顔こころもあきさくいあきバたを
かちよゆさだめん

十又歌

くハいじん乃きんがねきてハ勺

ありくしたもれせう

あかき若やたす乃と乃中るをあきこの那

からころもまきじ

きゆるかうとの乃とらあゆま

いうのこうあそん

てまハみかえる目れひろハあをれい

くトさしあだされまけ

月ひとねとこあとなとひきつ

こちたまへの助



さうりせやくさんかハさくやせめこふ

さハらむひやしれ助

やともとれむむしをともこや

とからだのなき助

こあまかたむろろりららんをかまかこ

妻さめふらんやう

志げろえ乃まをやまのえぬり

えんトや中ていたくくハいふんのまんまと中もえやう
よ里伝ねまのやまん六十二ていのやうあうや内あう
やあかき世あハかまごみをさくたうハ祿をあまたのう
坐乃公の水に志めしたまハん事もうねかひおいしを
つともまがことたさう合ます色いさうからぬをあん
めまごたもふさまによまるまドけまハあんはくへまよ
あらむ志りまバをんと中もおふさうあらんや

